



平成 29 年 7 月 1 日現在	
世帯数	957 戸
人口	2,367 人
男	1,188 人
女	1,179 人

ひろば20周年

記念式典によせて

健康づくり、生きがいづくりの活動に取り組んで参りました「福祉ひろば」が実行委員会・各種団体・全町会の皆様からのご支援とご協力を賜り、去る6月21日(水)に20周年記念式典を開催する事が出来ました。心より厚く御礼を申し上げます。

当日は、生憎の天気でしたが、送迎ボランティアの皆さんはフル回転、なんと1001名の参加者を迎える事が出来ました。

民生委員の皆さんによる内田地区ならではの手造りの素晴ら



しい飾り付けと背景画、町会長全員による演出に見守られ、活気溢れた会場となりました。

式次第からは、福祉計画課長・中野嘉勝様、平成24年度連合町会長・青木俊彦様両名の方から素晴らしいご祝辞を頂くことが出来ました。なんといつても実行委員全員の思いの詰まったサ

プライズ！ひろば開設当初から、20年に亘り「ふれあい健康教室」におきまして、血圧・脈拍の測定を通じて参加者ひとりひとりの健康相談にのって頂きました伊藤さんに、感謝の気持ちを表現したいという演出によ

り記念式典は更に最高潮に達する事が出来ました。「伊藤さんビックリさせてごめん下さい。これからもよろしくね。」

お楽しみ会の席では、「笑い療法士」和泉屋志ん治師匠をお招きする事が出来ました。言葉巧みな話法は、とつてもはざれが良く、笑う事の大切さ」に引きこまれあつという間にお開きとなりました。昼食時には特製カレーを食べながら「ひろば」の運営に関わって頂きました歴代の役員の皆様から、懐かしい話を聞くことが出来ました。そして記念式典は定刻を迎え終了致しました。

地域の皆様のご意見をお聞かせ頂き、福祉ひろばコーディネーターのお二人を中心として、これからも利用者ひとりひとりに「おもてなしの心」で接し、明るく元気になって頂きたいという活動に今回改めて、力を頂くことが出来ました。

皆様、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。誠にありがとうございます。

福祉ひろば事業推進協議会長
佐藤 兼平

乗鞍高原滝めぐり

五月二十七日、公民館、図書視聴覚委員会企画の視察研修「乗鞍高原滝めぐり」に参加した。市、所有のバスには総勢

二十名、小学生と一緒の母娘も乗る。予定の八時半出発、雨上りで快晴のなか、一時間程で風穴の里に着き、休息後休暇村高原駐車場へ向かう。すでに車で埋まっている。修学旅行と思しき奈良の中学生も来ていた。ここから最初の目的地、善五郎の滝を目指す。涼しくて心地好い。林を進む。木道が続く両側には至る所にミズバシヨウの群落

が点在するが、見頃は過ぎていた。ほどなく牛留池に着く。あずま屋からの乗鞍岳は、水面にも映り美しい。善五郎滝までは下りが続く。目の前に昨日の雨で増水した豪快な滝が迫ってくる。滝壺からのしぶきとマイナスイオンに寒さを感じ上着をは

おる。滝の向こうに剣ヶ峰が見え、絶好の撮影ポイントだ。再びバスへ、昼食に向かう。

お待ちかねの場所は、いがやスキー場のレストハウスチロルに予約されていた。朝早くから準備してくれたと思われる料理

の数々が並ぶ。山菜づくしのメニューに思わず生ビールを頼んでしまった。定番のそば、珍しいデザートどれも大満足。

次は一の瀬園地だ。乗鞍岳が快晴の青空、残雪の白とのコントラストに映え、見事だ。点在する池の周りには山野草が咲き、ワラビも顔を出している。が残念ながら山菜採取禁止の看板が立っていた。

最後は番所大滝だ。長く急な階段を下りた先に轟音と共に落下する大滝がある。圧倒された。上りはきつかった。千間淵へも足を伸ばす。こちらはゆつたりとした空間だ。

五時前には公民館に。今日は残雪が多く三本滝は諦めたとのことではあったが、近隣ながら訪れたことのない乗鞍高原視察研修を通じ、改めて自然豊かな信州を実感出来た充実の一日であった。

5町会 丸山剛徳



内田史跡めぐり

開催日の六月二十四日(土)、八時半に内田公民館を出発。先ずは常楽寺へ。ここの五輪の図の石碑は、「空、風、火、水、地」の文字を图案化し大自然を表しているようで、数十年前には、御高札場に設置されていた、子どもたちの遊びに使われていた様です。内田のコウヤマキは、松本城主小笠原秀政公の自らの手植えによるものと言われ樹齢推定三百五十年、天然記念物に指定されており。御高札場は、旧道の右牛伏寺、左松本の分岐点でかつては交通の要所であり、その跡は石段と礎石が残っていました。明善・内田学校跡を折り返し、大神社、八幡原八幡社へ。ここの境内地より大正年代に洞穴遺跡が発見され、石器遺物が数多く出土しております。紫陽花寺として有名な法船寺へ。残念なことに今回は開花前の見学となりましたが、境内には、他にも樹齢三百年以上と言われる大銀杏、樹齢二百年以上の枝垂桜があります。桃昌禅寺は、六地藏の奉り方に特徴があり、入り口を入ると正面に奉られています。また、こちら春先には見事な桜が開花するそうです。続いて内田のアカマツへ。「からかさ松」と称され、天然記念物に指定されていますが、今では枯れて無残な状態であり、非常に残念な事があります。害虫被害ではない



6町会 中村修

そうですが、早めの対策の必要性を感じましたが、しかし、周りには害虫被害の松が多く存在しており、天然記念物等の、自然遺産を後世へ残す対策は、今生きる我々の役目だと感じました。次は、牛伏寺へお参りに来た人々の道案内として置かれている「丁石」、クネノ内八幡宮、内田のケヤキと巡り、最後は久し振りの馬場家住宅の見学です。七夕の準備の様子が伺え、馬場家がこの地に来た戦国時代以降、内田との関係が深かった事を知りました。また、敷地内の展示から、縄文時代のエリ穴遺跡の出土品と、その他展示物より、数多くの遺跡が内田地区に点在している様子が解りました。今回の参加で、初めて内田の歴史を知る事ができ、縄文時代からの数多くの遺跡、神社仏閣の多さ、松本市指定の天然記念物、他文化財の多さ等、それらを遺産として後世に残す重要性を感じました。

ホタル

学習会・観察会

「隅々まで手入れが行き届いた美しい田園風景の中でホタルを見つけることは難しく、むしろ草が雑然と生い茂る水辺にその姿を確認することができる」―大人にとっても目から鱗が落ちるホタル学習会・観察会が、本年も内田公民館・松本ホタル学会主催で去る六月三十日(金)に開催されました。例年百名以上参加する人気行事ですが、生憎の空模様の影響か、三十名程度と少々寂しい参加者でした。

まず信州大学特任教授の藤山静雄先生より、「ホタルも棲める良い自然と生物多様性」と題したご講演を賜りました。クイズ形式でホタルの基礎知識を問う内容等、子ども達も興味

味深く先生の話を聞いておりました。元々ホタルが棲むのは特殊な環境ではなく、かつてはどこにも見られた風景こそがホタルも棲める良い自然とのこと。一見美しく見える風景が果たして良い自然なのか、大いに考えさせられました。講演の後、塩沢川に移動してホタル観察へ。ちょうど雨が止み雲の切れ目から星空が顔を出すと、草叢に隠れていたホタルは徐々に姿を現し、子ども達は暗闇に舞う淡い光に歓声を上げながらホタルの捕獲に挑戦していました。「子どもは本質的には虫を捕まえるのが大好き」と仰っていた藤山先生の言葉も頷けます。最近では生き物好きなきな子どもが「絶滅危惧種」となっているとのこと。先生の訴える生物多様性の危機が、そこでも影響しているようです。



多様な生物が共存できる環境こそが、ホタルも、人間も棲みやすいところ。最近のミネラルウォーターのCMで、空から注がれる一滴の水が様々な生き物に触れることで濾過されていく映像を見て、ホタルの好きな「甘い水」はどんな水か理解できた気がしました。

1町会 近藤栄祐

球技大会結果

七月九日、恒例の球技大会が開催されました。今年も激戦が繰り広げられました。

結果は以下の通りです。

- 軟式野球
 - 優勝 第9町会
 - 準優勝 第2町会
 - 第三位 第5町会
- ソフトバレーボール
 - 優勝 第5町会
 - 準優勝 第3町会
 - 第三位 第9町会
- ゲートボール
 - 優勝 第5町会
 - 準優勝 第2町会
 - 第三位 第9町会

つれづれ編集記

先日、松本信用金庫と松本市が主催の「健康寿命延伸都市・松本」企業連携事業の島田洋七さんの講演会に行つて参りました。島田さんの著書「佐賀のばいばあちゃん」は販売数が国内だけで一千万部を超え、ドラマ化や映画化もされているので、多くの方がご存知だと思います。ご自身の人生やばあちゃんとの生活、八十歳過ぎのかあちゃんと

の海外旅行の話は本当に面白く、千人余りの聴講者を何回も沸かしてくれました。演題の「笑顔で生きんしゃい！」のとおりに、笑顔でいれば大抵のことはなんとかなるし、元気でいられるとの話。笑ってばかりいられないと怒るより、笑うしかない。と聞き直つてみるのも健康寿命延伸につながるのかもしれない。

2町会 中島弘美